

セミナー資料
2024年2月

あおぞら銀行 BANK限定 オンラインセミナー

～長期・積立・分散投資の重要性～



あおぞら投信

AOZORA

商号等: あおぞら投信株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第2771号

加入協会: 一般社団法人投資信託協会

講師/ゲスト紹介

<講師>

あおぞら投信株式会社
取締役会長 柳谷 俊郎



1985年日本債券信用銀行（現：あおぞら銀行） 入行

国際証券部、ロンドン支店、市場証券部などを経て、リテール部門で投資信託の企画・開発に携わる。2014年にあおぞら投信を設立し、代表取締役社長を経て2017年7月より現職。全国でセミナー・講演等を行っている。

また、2022年4月より、全国コミュニティFM番組「週刊Nobbyタイムズ」に第2、第4木曜日に出演。知っておきたい経済のトピックをパーソナリティのDJ Nobby氏と共に解説している。

<ゲスト>

DJ Nobby氏
経済ニュースキャスター/コンプライアンスのスペシャリスト



外資系金融機関に新卒入社、外国為替ディーラーやクレジットリスク管理などを担当。その後、東京金融取引所に転職、FXの取引監視や上場企画等の仕事に従事。その後、米系保険会社にて金融コンプライアンスリスク分析のマネージャーを歴任。

全国放送ラジオ番組2本レギュラー出演/プロデュース中。

ラジオ全国コミュニティFM番組「DJ Nobby's Tokyo LIVE!!」メインパーソナリティを務める傍ら、フォロワー10万人を超える経済情報チャンネル音声プラットフォームVoicyで「昨日の経済を毎朝5分で！」を配信中。

～長期・積立・分散投資の重要性～

- ◆ ライフサイクルから考える将来設計
- ◆ 預金以外で将来に備えていますか？
- ◆ 「時間」は資産運用で最大の武器のひとつ？
- ◆ 資産を育むための資産構成とは？
- ◆ お金が働く場所とは？

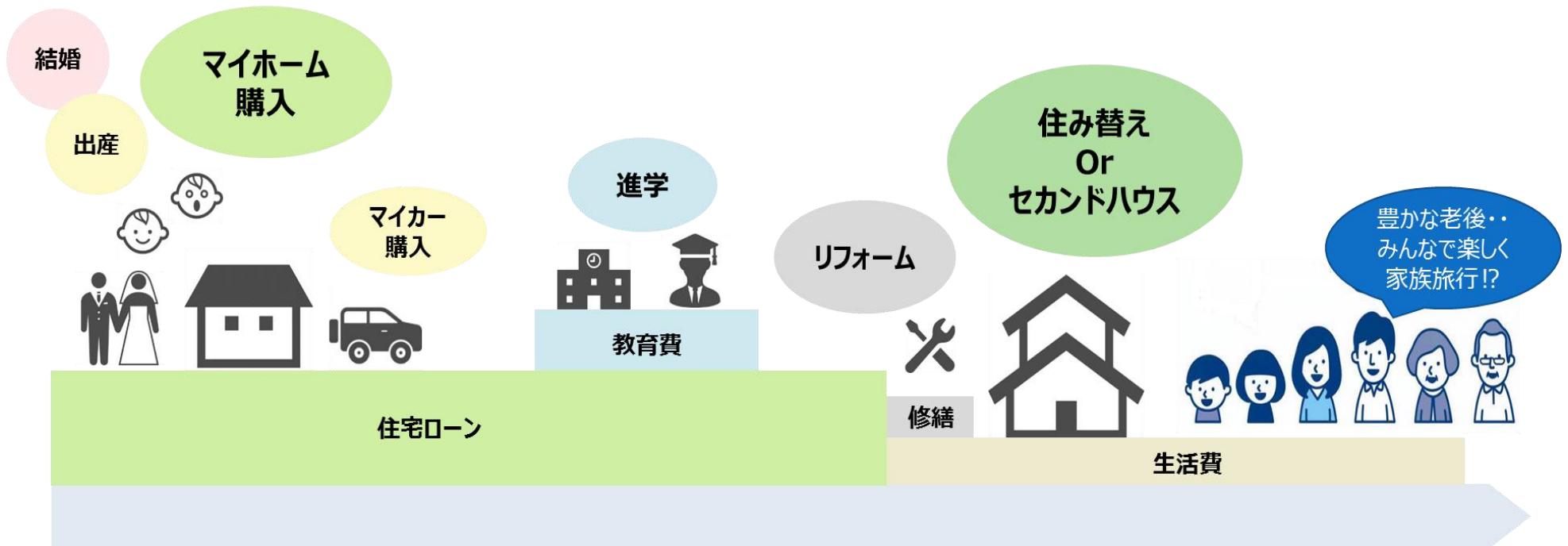
＜ご参考＞ 時間をかけて資産を育んだ結果（過去のシミュレーション結果）

＜まとめ＞

～長期・積立・分散投資の重要性～

ライフサイクルから考える将来設計

人生にはイベントがたくさん！
皆さんは資産をどのように育み、豊かな将来に備えますか？



※上記はイメージであり、すべてのケースを示したものではありません。

本資料最終ページの「本資料に関してご留意頂きたい事項」を必ずご覧ください。

～長期・積立・分散投資の重要性～

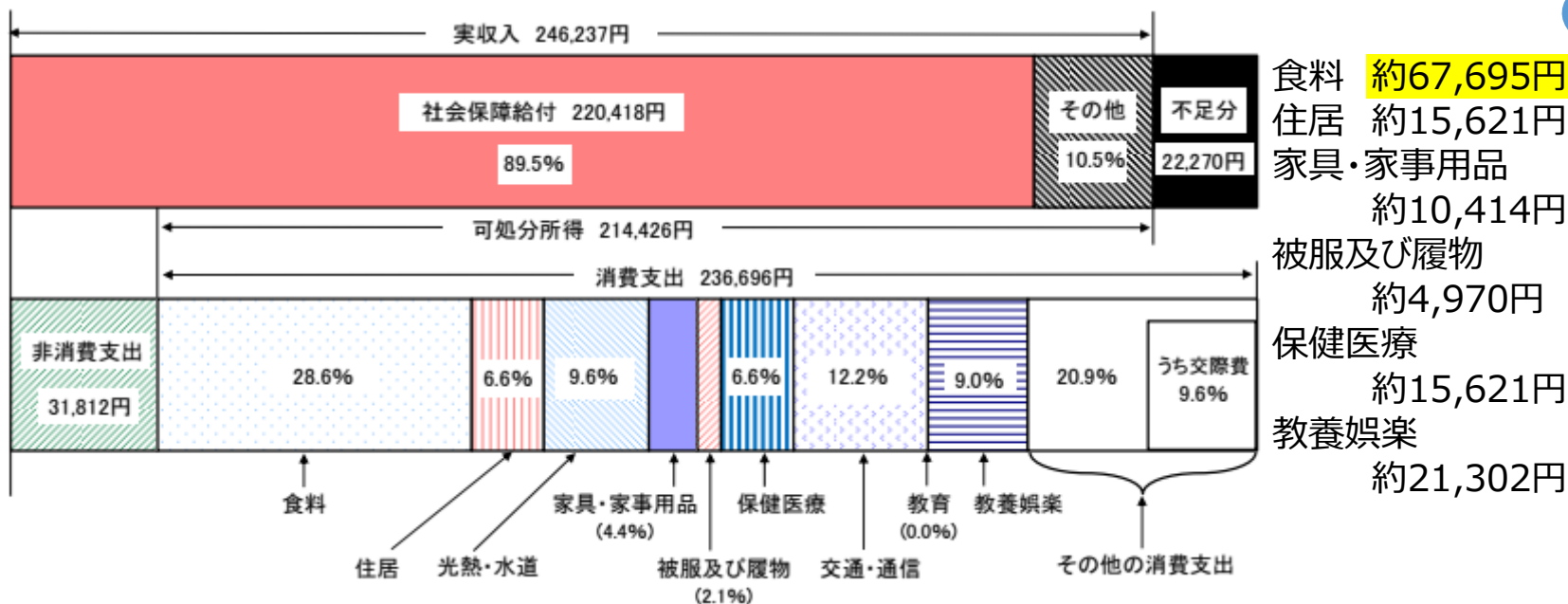
ライフサイクルから考える将来設計

老後の収支から考える備えとは？



平均的な収支から自分自身の収支をイメージしてみると・・・？

65歳以上の夫婦のみの無職世帯（夫婦高齢者無職世帯）の家計収支 - 2022年 -



2人で1食あたり：
752円？

食料 約67,695円
住居 約15,621円
家具・家事用品 約10,414円
被服及び履物 約4,970円
保健医療 約15,621円
教養娯楽 約21,302円

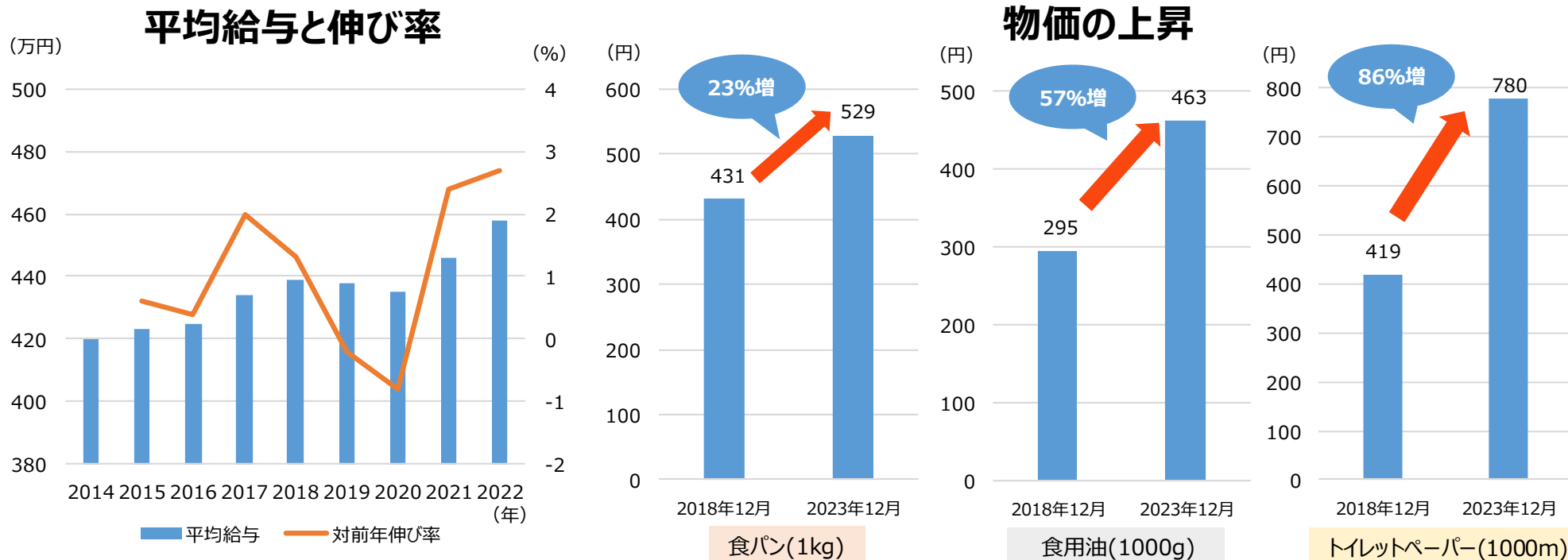
注意：1 図中の「社会保障給付」及び「その他」の割合（%）は、実収入に占める割合である。
2 図中の「食料」から「その他の消費支出」までの割合（%）は、消費支出に占める割合である。
3 図中の「消費支出」のうち、他の世帯への贈答品やサービスの支出は、「その他の消費支出」の「うち交際費」に含まれている。
4 図中の「不足分」とは、「実収入」から「消費支出」及び「非消費支出」を差し引いた額である。
出所：総務省統計局「家計調査年報（家計収支編）2022年（令和4年）」

～長期・積立・分散投資の重要性～

ライフサイクルから考える将来設計

物価の上昇への対策は？

平均給与は近年上昇傾向にあるが、生活必需品の価格はそれ以上に大幅に上昇



物価の上昇に対抗する術として、給与の伸びへの期待ではなく、
自分自身の資産を運用するという方法が一つ必要なのではないのでしょうか。

出所：(上図左) 国税局『民間給与実態統計調査』(令和4年)
(上図右) 総務省統計局『小売物価統計調査』物価はいずれも東京都区部より引用

本資料最終ページの「本資料に関してご留意頂きたい事項」を必ずご覧ください。

～長期・積立・分散投資の重要性～

預金以外で将来に備えていますか？



ポイントを整理して、時間軸に合わせた運用を考えてみましょう

✓ 少し遠い将来の話題

自分には関係ない？
将来のことなのでピンとこない？

老後2,000万円問題	住宅購入
深刻な少子高齢化	人口減少

✓ 直近の身近な話題

最近の物価上昇は
一人ひとりの家計に影響・・・

物価が高騰	値上げラッシュ
賃金が上がらない	家計不安

給与水準が劇的に上昇しなくても、まとまった資金がなくても、
時間をかけて**少しずつコツコツと資産を育む**



長期・積立・分散投資

～長期・積立・分散投資の重要性～

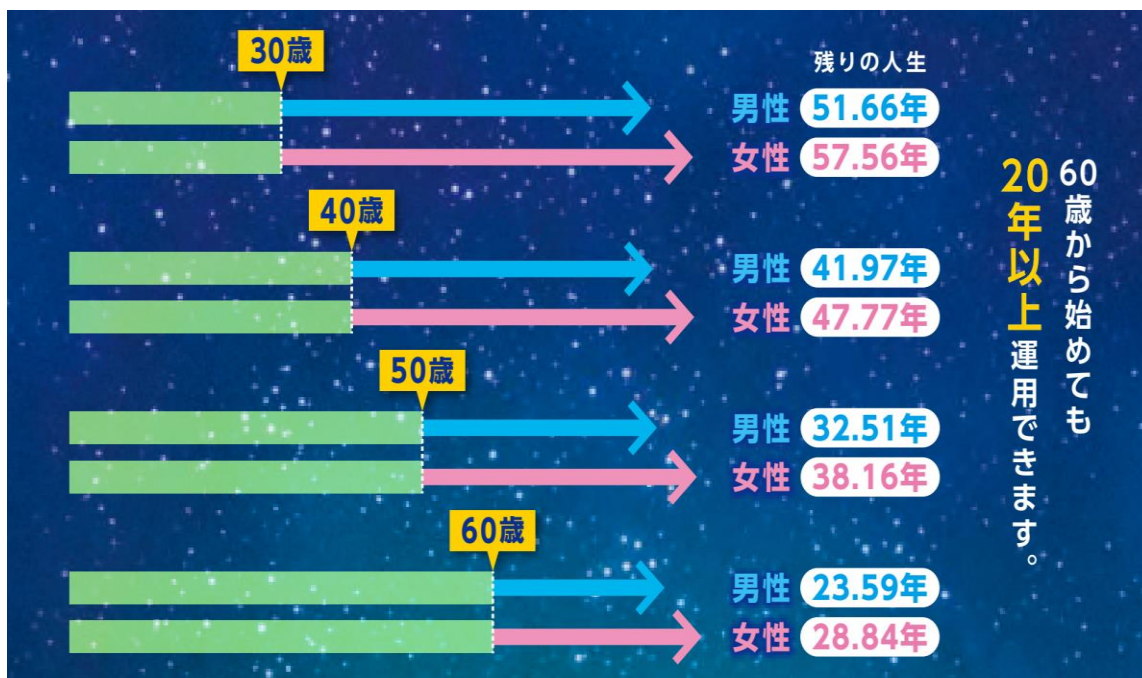
「時間」は資産運用で最大の武器のひとつ？



ポイントを整理して、時間軸に合わせた運用を考えてみましょう。

老後までの時間はどれくらい？

●それぞれの年代の平均余命



人生100年時代と言われるとおり、**投資する時間（期間）**は意外とあるのです。

★20年かけて同じ金利で運用した場合は・・・？

⇒次のページへ

出所：厚生労働省 令和4年簡易生命表

～長期・積立・分散投資の重要性～

「時間」は資産運用で最大の武器のひとつ？

－ 72の法則 － 「複利で運用する場合に、お金が2倍になる期間を知るための計算」

例えば・・・

預金のままなら
年0.2%の金利でも
2倍になるのに360年かかる

金利が 0.2%の場合 $72 \div 0.2 = 360$ 年で資産が倍に

金利が 1%の場合 $72 \div 1 = 72$ 年で資産が倍に

金利が 3%の場合 $72 \div 3 = 24$ 年で資産が倍に

年率4%なら
約20年で2倍に！

金利が 4%の場合 $72 \div 4 = 18$ 年で資産が倍に

～長期・積立・分散投資の重要性～

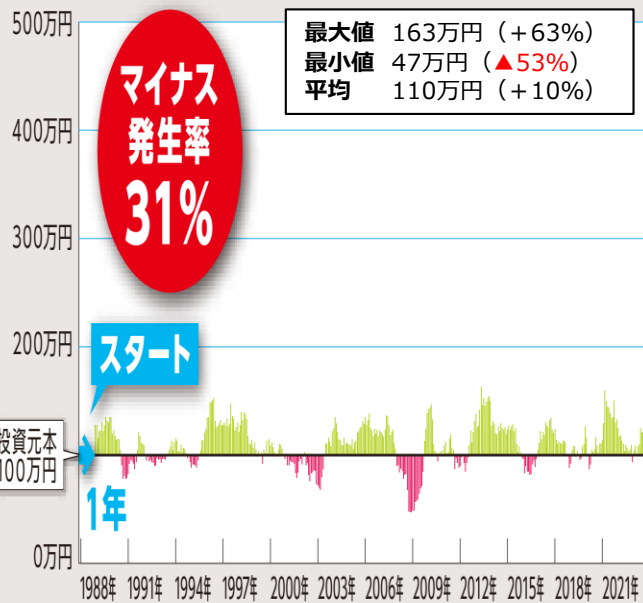
「時間」は資産運用で最大の武器のひとつ？

－ 世界株式への投資 －

世界株式に投資した場合の比較図

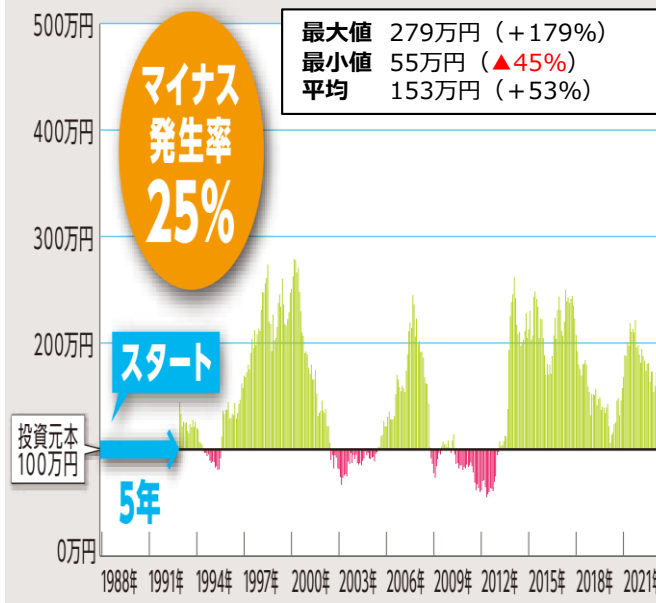
運用期間1年の結果

運用開始時期：1987年12月末～2022年10月末



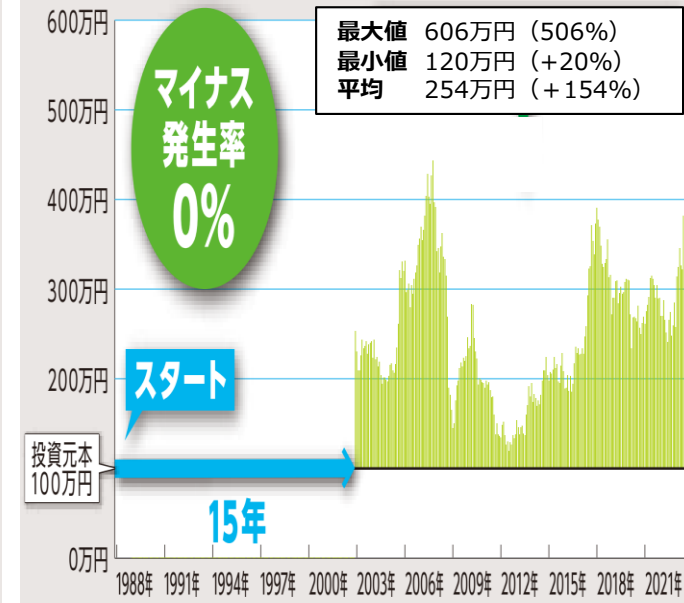
運用期間5年の結果

運用開始時期：1987年12月末～2018年10月末



運用期間15年の結果

運用開始時期：1987年12月末～2008年10月末



過去の実績で見ると、
運用期間15年以上だと、いつから運用を
開始してもプラスになりました。

上記グラフは、1987年12月末以降の各月末に運用を開始した場合の1・5・15年間のリターンとその最大値、最小値、平均値を示したものです。

また、実際の運用に係わる費用は反映していません。上記は、過去のインデックスに投資をした場合のシミュレーション結果であり、運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

世界株式：MSCIオール・カンントリー・ワールド・インデックス（ロス配当込み、円換算ベース）

出所：MSCI Inc.からのデータを基にあおぞら投信が作成

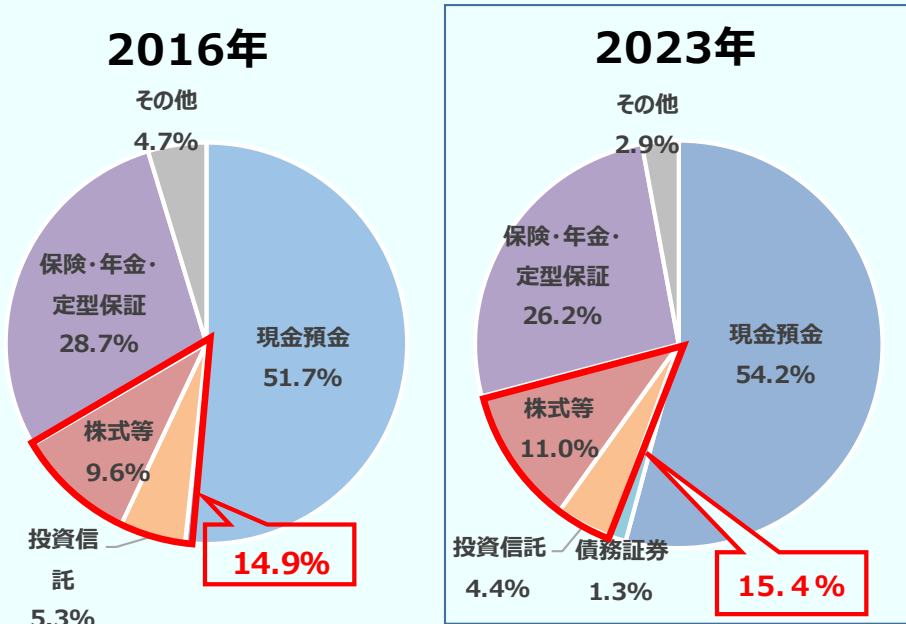
～長期・積立・分散投資の重要性～

資産を育むための資産構成とは？

家計の金融資産の構成 日本と米国の比較(2023年3月)

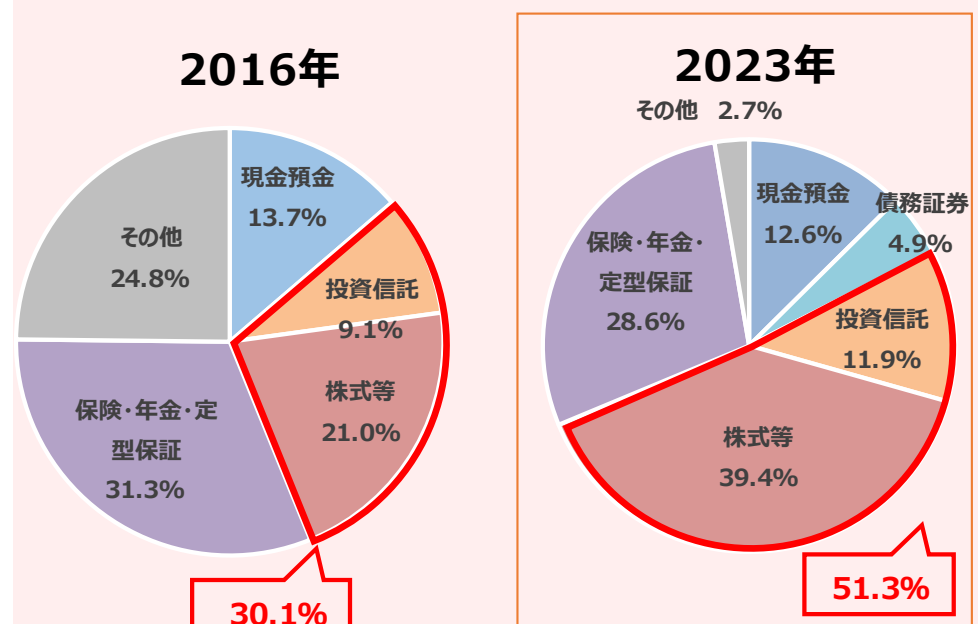
💡 米国と比較して、日本はこの7年で株式・投資信託の保有割合の変化がほとんどなく、米国は株式・投信の割合が約20%増加しています。

日本



金融資産
1,815兆円 → 2,043兆円
+約13%

米国



金融資産
75.5兆ドル (11,277兆円) → 114.3兆ドル (17,072兆円)
+約51%

出所：日本銀行調査統計局（2023年8月25日）のデータに基づき作成。
※米国金融資産額：1ドル = 149.37円（2023年9月29日）

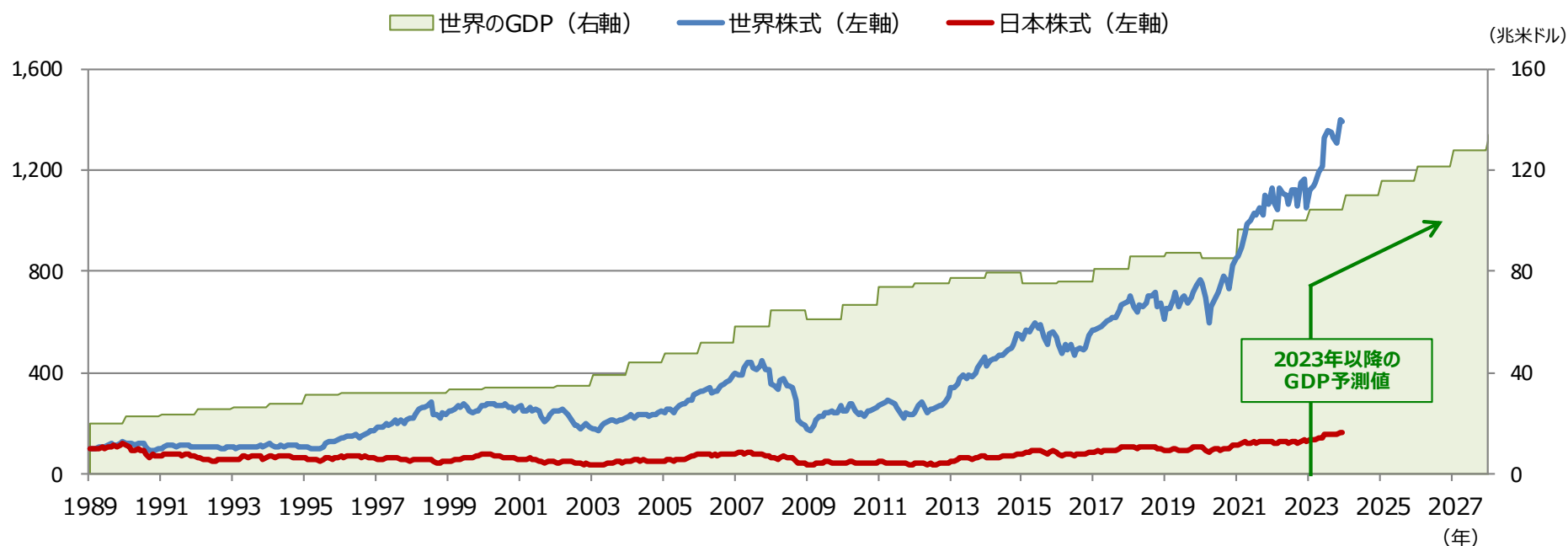
本資料最終ページの「本資料に関してご留意頂きたい事項」を必ずご覧ください。

～長期・積立・分散投資の重要性～

お金が働く場所とは？

世界の成長率とその反映である株式市場

世界/日本株式指数（1989年1月31日～2023年12月31日） と世界のGDPの推移（1989年～2028年、2023年以降は予測値）



**世界経済は、今後も成長を続けると考えます。
資産を育む方法としての「世界株式」への投資は一つの方法とされています。**

出所:IMF(国際通貨基金)World Economic Outlook Database 2023 October 2023のデータを基におおぞら投信が作成。

※世界株式：MSCIオール・カントリー・ワールド・インデックス（ gross 配当込み、円換算ベース）、日本株式：TOPIX（配当込み）

※1989年1月末を100として指数化しています。

※上記は過去の実績およびIMFの予測であり、将来における運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。

～長期・積立・分散投資の重要性～

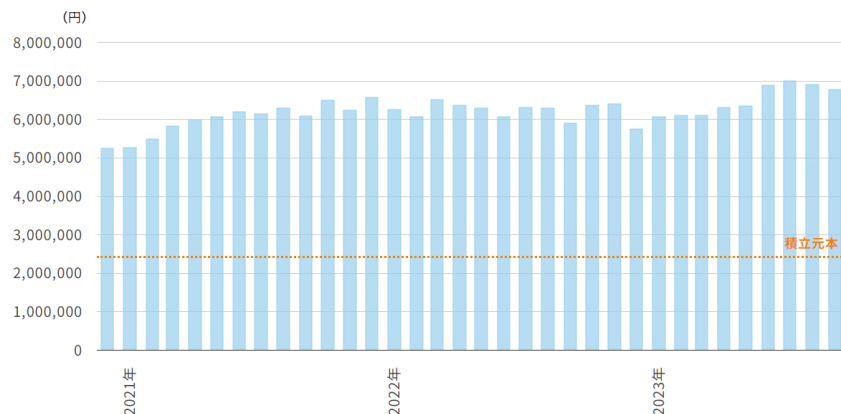
お金が働く場所とは？

使ってみよう！ あおぞら投信の“かんたん積立シミュレーション” 過去の世界株式に投資をした場合のシミュレーション結果（投資期間20年）

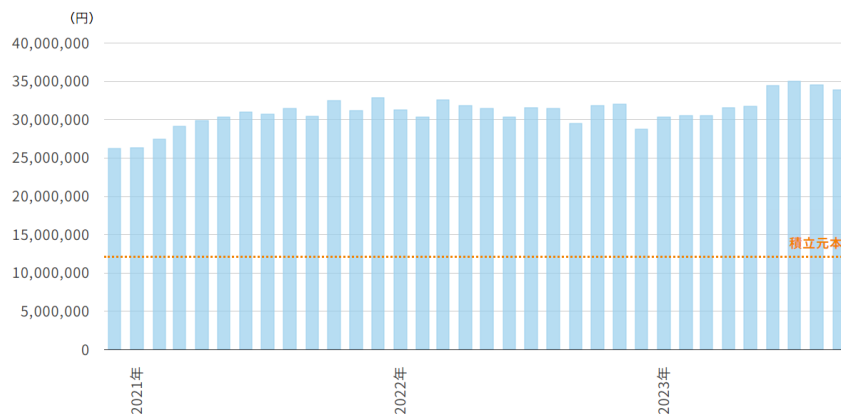
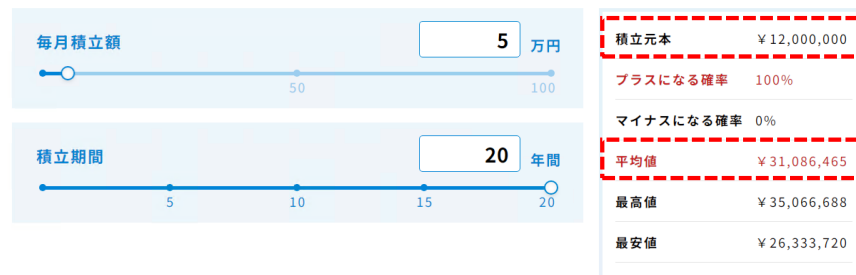
ご利用はこちら！
(あおぞら投信公式ホームページ内)



コツコツ毎月1万円を世界株式に積立投資



コツコツ毎月5万円を世界株式に積立投資



(月1万円) 世界株式への
積立投資を続けた結果20年で**約622万円** (平均値)

(月5万円) 世界株式への
積立投資を続けた結果20年で**約3,109万円** (平均値)

※ 上記は実際の運用に係わる費用は反映していません。過去の実績は将来における運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

世界株式：MSCIワールド・インデックス（ネット、配当込み、円換算ベース）、MSCI エマージング・マーケット・バリュー・インデックス（ネット・配当込み、円換算ベース）を基にあおぞら投信が作成。

本資料最終ページの「本資料に関してご留意頂きたい事項」を必ずご覧ください。

～長期・積立・分散投資の重要性～

<ご参考> 時間をかけて資産を育んだ結果（過去のシミュレーション結果）

投資成果  20年だと最小値でも元本割れはしない結果に。最大値では約3倍となりました。

	10年間	世界株式に積立投資	20年間	世界株式に積立投資
1万円/月	120万円 投資元本	最大値 約234万円 平均値 約183万円 最小値 約100万円	240万円 投資元本	最大値 約701万円 平均値 約622万円 最小値 約527万円
5万円/月	600万円 投資元本	最大値 約1,172万円 平均値 約917万円 最小値 約502万円	1,200万円 投資元本	最大値 約3,507万円 平均値 約3,109万円 最小値 約2,633万円
10万円/月	1,200万円 投資元本	最大値 約2,344万円 平均値 約1,834万円 最小値 約1,005万円	2,400万円 投資元本	最大値 約7,013万円 平均値 約6,217万円 最小値 約5,267万円
●				
●				
50万円/月	6,000万円 投資元本	最大値 約1億1,720万円 平均値 約9,170万円 最小値 約5,025万円	1億2,000万円 投資元本	最大値 約3億5,067万円 平均値 約3億1,086万円 最小値 約2億6,338万円

※ 上記は実際の運用に係わる費用は反映していません。過去の実績は将来における運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

世界株式：MSCIワールド・インデックス（ネット、配当込み、円換算ベース）、MSCI エマージング・マーケット・バリュー・インデックス（ネット・配当込み、円換算ベース）を基にあおぞら投信が作成。

本資料最終ページの「本資料に関してご留意頂きたい事項」を必ずご覧ください。

～長期・積立・分散投資の重要性～

<ご参考> 資産分散の効果

金融危機以降の資産別リターンと資産評価額の推移

～資産別リターンの推移～

年 順位	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	10年間	15年間
1	先進国債券 3.7%	新興国株式 83.1%	新興国株式 3.6%	先進国債券 1.9%	新興国株式 33.0%	国内株式 54.4%	先進国株式 19.5%	国内株式 12.1%	新興国株式 7.9%	新興国株式 32.5%	先進国株式 64.6%	先進国株式 158.0%
2	グローバル分散投資* -30.7%	先進国株式 33.4%	先進国債券 1.6%	グローバル分散投資* -6.7%	先進国株式 30.3%	先進国株式 53.9%	グローバル分散投資* 11.5%	先進国債券 0.5%	先進国株式 4.3%	国内株式 22.2%	グローバル分散投資* 57.9%	グローバル分散投資* 99.0%
3	国内株式 -40.6%	グローバル分散投資* 25.7%	国内株式 1.0%	先進国株式 -10.4%	国内株式 20.9%	グローバル分散投資* 29.0%	新興国株式 11.4%	先進国株式 -0.6%	グローバル分散投資* 3.0%	先進国株式 18.1%	国内株式 51.4%	国内株式 77.5%
4	先進国株式 -51.8%	国内株式 7.6%	グローバル分散投資* -0.3%	国内株式 -17.0%	グローバル分散投資* 19.1%	新興国株式 18.4%	国内株式 10.3%	グローバル分散投資* -1.6%	国内株式 0.3%	グローバル分散投資* 12.1%	新興国株式 19.0%	新興国株式 29.1%
5	新興国株式 -62.1%	先進国債券 1.8%	先進国株式 -2.6%	新興国株式 -22.6%	先進国債券 1.7%	先進国債券 0.4%	先進国債券 1.6%	新興国株式 -14.7%	先進国債券 0.1%	先進国債券 -0.5%	先進国債券 13.6%	先進国債券 7.6%

～2007年末に100万円を投資した場合の資産評価額の推移～

資産	年	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2022
先進国株式	A	48.2	64.2	62.6	56.0	73.0	112.4	134.3	133.5	139.3	164.6	258.0
グローバル分散投資	B	69.3	87.2	86.9	81.1	96.6	124.6	138.9	136.8	140.9	157.9	199.0
国内株式	C	59.4	63.9	64.5	53.6	64.7	99.9	110.2	123.5	123.9	151.4	177.5
新興国株式	D	37.9	69.4	71.9	55.6	74.0	87.6	97.5	83.2	89.8	119.0	129.1
先進国債券	E	103.7	105.5	107.2	109.3	111.2	111.6	113.4	114.0	114.1	113.6	107.6

先進国株式：MSCIワールド・インデックス（ネット・配当込み、円換算ベース）、新興国株式：MSCIエマージング・マーケット・インデックス（ネット・配当込み、円換算ベース）、先進国債券：FTSE世界国債インデックス（1-5年、円ヘッジベース）、国内株式：TOPIX（配当込み） *グローバル分散投資：上記の先進国株式、新興国株式、先進国債券を5：1：4の割合で合成したものを。
※インデックスには直接投資できません。インデックスのパフォーマンスは、実際のポートフォリオ運用に関する費用を反映していません。過去の実績は、将来の運用成果を示唆・保証するものではありません。

（単位：万円）



グローバル分散投資のポイント

- ◆ 単年で1位になったり、最下位になることはなく、株式に比べてリターンのブレが少ない。
- ◆ 2008年からの10年間、15年間では上位のリターンとなった。
- ◆ 株式のリターンが大きくマイナスの年の債券のリターンは比較的堅調となる傾向。

～長期・積立・分散投資の重要性～

まとめ

投資を始める不安やストレス・・・

投資信託なら・・・

投資は、難しそう。何を選んだら良いのかを自分で考えて売り買いするなんて、よく分からないいな・・・



投資信託は、運用のプロが選んだ銘柄にまとめて投資ができるので、個別銘柄の管理の必要はありません。

一括購入だと、マーケットを見ながらいつ買っていつ売るかを自分で決めないとイケない。下落するストレスは抱えたくないな・・・



自動積立投資なら、毎月淡々と決まった額を自動的に投資するので、購入時期を考える必要がありません。

一括購入だと、高値で買ってしまつと売却のタイミングが分からず、下落して売却すると大きな損がでてしまうので嫌だな・・・



積立投資なら、投資のタイミングを分散して、ドルコスト平均法を活用して、リスクの低減を図れます。

積立投資のイメージ図*



まとまった資金がないとできないよね・・・



まとまった資金がなくてもOK!

～ 資産形成への近道とは ～

一喜一憂しない投資 = リラックスが生み出すゆったりコツコツ積立投資

* 積立投資のイメージ図：時間分散効果をより深くご理解いただくためのイメージであり、シミュレーションではありません。投資信託は値動きのある有価証券等に投資するため、基準価額は変動します。あくまでも一般的な時間分散効果について解説したものです。将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではなく、すべてのケースを網羅しているものではありません。購入タイミングによっては一括投資のケースの方が購入単価が異なることもあります。出所：あおぞら投信が作成

本資料に関してご留意頂きたい事項

<本資料全体に関するご留意事項>

- 本資料は、あおぞら投信株式会社（以下、「あおぞら投信」といいます。）が作成したセミナー資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。本資料は、あおぞら投信が信頼できると判断した情報等に基づいて作成されていますが、あおぞら投信がその正確性・完全性を保証するものではありません。
- 本資料に記載された過去の実績は、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。投資した資産の価値の減少を含むリスクは、投資信託をご購入のお客さまが負うことになります。
- 本資料に記載された市況や見通し、数値、図表、意見等は、本資料作成時点でのあおぞら投信の見解であり、将来の動向や結果を示唆あるいは保証するものではありません。また、将来予告なしに変更する場合があります。
- 本資料は情報提供を目的としてあおぞら投信が作成した資料であり、特定の金融商品の推奨（有価証券の取得の勧誘）を目的とするものではありません。
- 本資料に記載された指数については、あくまでも例示をもって理解を含めていただくためのものであり、いかなる個別銘柄の売買、ポートフォリオの構築、投資戦略の採用等の行為を推奨するものではありません。
- 本資料で使用している各指数に関する著作権等の知的財産権、その他の一切の権利はそれぞれの指数の開発元もしくは公表元に帰属します。
- 本資料に掲載されている全ての内容の著作権・肖像権等知的財産権は、当社または権利者に帰属します。したがって、本資料の一部または全部を複製すること、また弊社の書面を許可なく再配布することを禁じます。記載内容に関するご質問・ご照会等にはお応え致しかねますので、あらかじめご容赦ください。

商号等：あおぞら投信株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第2771号

加入協会：一般社団法人投資信託協会